

若手研究者育成委員会からの報告

2023年度国際法模擬裁判アジアカップ開催報告

国際法の未来を担う若手研究者の育成は、国際法学会にとっての重要な使命です。特に模擬裁判は研究の基礎能力を向上させるうえで有効な手段とされており、若手研究者育成委員会が大会運営を担っています。

2023年度には、外務省との共催により、2019年以来の対面となる国際法模擬裁判アジアカップを開催することができました。コロナ禍を乗り越え、国際法の実践的な学びの場を提供するとともに、参加者間の貴重なネットワーキングの機会を創出しました。特に、決勝法廷は国連大学のエリザベス・ローズ国際会議場で実施され、その後のレセプションを通じて参加者間の交流が実現しました。

2023年度大会の問題文では、被告国による過去の大虐殺事件に関して原告国が裁判権免除を認めなかったことを中心に、強制措置からの免除、国際司法裁判所の時間的管轄権、反訴の受理可能性など、多彩な論点が設定されました。参加者は3か月程度の書面準備期間を経て、本戦での弁論に備えました。

参加校は18か国から55校に及び、その中から書面審査で選抜された15か国16校が熱い戦いを繰り広げる本戦へと駒を進めました。大会では、新旧の力関係が入れ替わるサプライズもあり、Asia Cupに初挑戦のチームが躍進を遂げる結果となりました。栄えある優勝は、バングラデシュのUniversity of Dhakaが手にし、カンボジアのNational University of Managementが準優勝に輝きました。

最優秀書面は原告部門でUniversity of Dhaka、被告部門でインドネシアのUniversitas Padjadjaranが受賞し、最優秀弁論者には原告部門でYEN Sovan Chanmony氏（National University of Management）、被告部門でSydney Antoinette Siaw Xueying氏（Singapore Management University）が選ばれました。

1

若手研究者育成委員会からの報告

決勝法廷の審査には、国際法学会の植木俊哉代表理事、オクスフォード大学のDapo Akande教授、そしてアジア・アフリカ法律諮問委員会（AALCO）事務局長のKamalinne Pinitpuvadol氏が携わり、その権威ある評価が各校の努力を称えました。

さらに、今年度は第1回東京国際法セミナーとの同時開催により、岩沢雄司国際司法裁判所裁判官の講演をはじめとした多彩なプログラムが参加者の学びの幅を広げ、国際法理解の深化に寄与しました。

対面開催がもたらすエネルギーと情熱は、次世代の国際法学者たちの中で新たな火を灯しました。国際法学会は、これからも若手研究者のための支援と機会の提供を続けていきます。



優勝チームと植木代表理事の記念写真



国連大学での決勝法廷の様子

若手研究者育成委員会からの報告

2024年度国際法模擬裁判アジアカップの裁判官を募集します

学会会員の皆様が持つ専門知識と経験を次世代の国際法研究者に伝え、その成長を見守ることは、本学会会員の共同の責務です。その一環として学生が参加する模擬裁判の審査では、多様なバックグラウンドを持つ知識豊富な裁判官が不可欠です。そこで国際法学会は、2024年度の国際法模擬裁判アジアカップの成功に向けて、裁判官を募集しています。

国際法学の教育と実践の場として、この模擬裁判は学生たちにとって貴重な学びの機会を提供します。裁判官として参加されることは、若手研究者たちの教育に直接関わり、彼らが将来的に国際社会で活躍するための礎を築くことに繋がります。

学会会員の皆様には、ご自身の専門知識を活かし、裁判官としてこの大会にご参加いただくことを心よりお願い申し上げます。貴重な知見を若手に伝授し、彼らの研究者としての道のりを支えていただければ幸いです。

書面裁判官：7月末から8月にかけて予選を通過した書面を審査します。

弁論裁判官：大会当日（8月27日（火）・28日（水））に口頭弁論を審査します。

ご協力いただける会員の方は、下記のリンクから登録フォームにアクセスし、必要事項をご記入ください。後日、裁判官担当より詳細な情報と共に、大会への具体的な依頼をさせていただきます。

【裁判官登録フォームリンク】

<https://forms.gle/XnDamMMU8og47NPSA>

